

算数科における指導理念、指導法、指導技術とは、

1. 指導理念

学校教育法 第18条 五

「日常生活に必要な数量的な関係を、正しく理解し、処理する能力を養うこと。」

↓
考えることや学ぶ楽しさを感じさせる。

- ・「考えること」の教育的価値としての位置付け。
- ・子どもたちに算数の学習を通して「ものを考えること自体の喜び」を見出させ、その醍醐味を味わわせること。
- ・教師は、その契機を与え、誘うのが役割である。

2. 指導法

指導は、指導者の手によって行われるものであり、その指導法は、指導者各自の工夫によるものであることが原則である。

指導者としての基本

- ・算数教育も人間形成の一環である。自由に主体的に考えることのできる人間の育成。
- ・愛情を持った指導。
- ・教材内容の十分な理解。
- ・子どもの考えを制限したり、無視したりしない。

問題解決学習

留意点

- ・指導目的を明確にする。特に「どんな数学的な見方考え方を育てるのか」ということを明確にする。
- ・教材内容を十分に理解する。
- ・指導内容の系統性を把握する。
- ・子どもに授業のねらいや見通しを持たせる。
- ・子どもに学習内容の本筋に興味関心を持たせる。
- ・子どもが自分で作り上げていくような学習にする。
- ・能率的、計画的な指導をする。

3. 指導技術

これも指導者各自の工夫によるものであることが原則である。

学習形態

一斉学習・グループ学習・個別学習・ティームティーチング・少人数学習・コンピュータ利用
子どもに「数学的な考え方」を獲得させるための指導。特に、技能を含んだ数学的な考え方の獲得。

具体物を通して視覚的に捉える学習

ブロック操作・動作化・イメージ化・情景図・実験・思考実験

算数的活動

実生活における様々な事象と関連させた指導

数の操作による指導ではなく、量の操作による指導を通して数の概念を養う指導。

一斉指導の中に個人差に応じた指導

理解の程度に幅を持たせる指導・作問指導・技能習熟のための指導